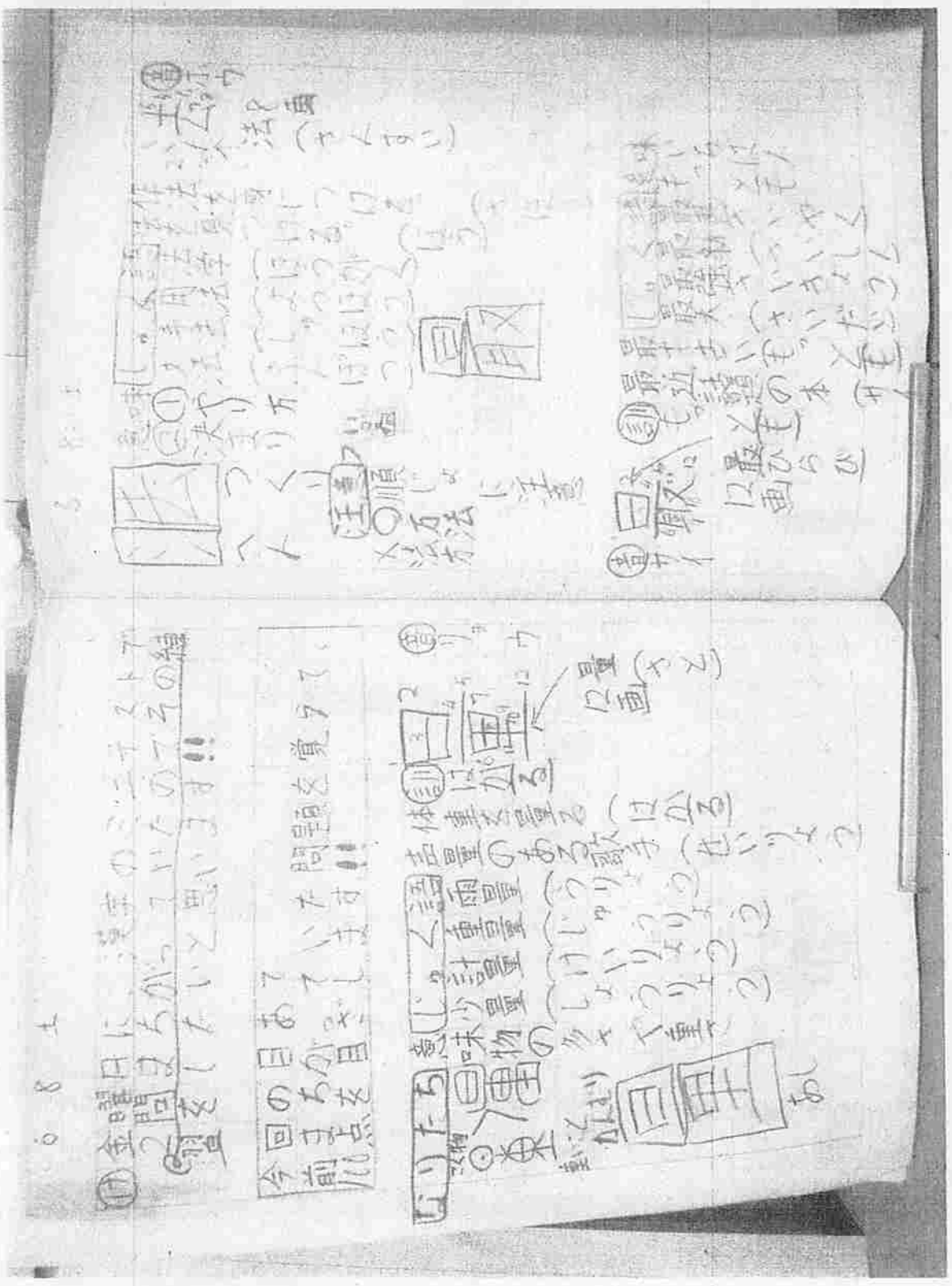
【資料４】「けテぶれ」児童のノート



(引用元) 菊原祥太 著『「けテぶれ」宿題革命！子どもが自ムリに学習者に変わる！』 P96～97

資料 8

学びの海に降りて

一生使える力を身につけよう！

今までの宿題は、みんな同じところを同じだけやっていきましたね。みんなで大きな船に乗って同じように進んできたのです。今日から始める「けテぶれ」での学びはそうではありません。みなさんにはこれから船から降りて、**自分の力で目標まで進んでいってもらいます。**

でも、泳ぎ方を知らずに海に飛び込めば溺れてしまいますよね。だから、泳ぎ方を教えます。それが**「けテぶれ」**です。学びの海では、**「計画、テスト、分析、練習」**というサイクルをまわすことで、自分の行きたいところに進んでいくことができます。

さぁ、これからは、何をどう学ぶかを誰かに決められることはありません。自分の力で自由に学びの海を泳ぎ回りましょう。学びの海はみんなが思っている以上に広く、深いです。その海の中で、たくさんの宝物を見つけてください！　宝物を探して泳ぎ回るうちにみんなには、学びの海の泳ぎ方「けテぶれ」が上手になってきます。学びの海を自分で泳ぐ力、つまり**自分で自分の学びを進める力のことを「学習力」**といいます。これは大人になっても使える大切な力ですよ！

～学びの海の泳ぎ方・完全レクチャー～

計画…その日の"めあて"を書こう！

けテぶれの最初は、「計画」ノートの1行目に「その日のめあて」を書こう！　**どんなことをどのように頑張るのか**考えよう！「なぜそれをするのか」という理由まで書ければ花マル！

テスト…自分でテストをしてみよう！

計画の次はテスト！　ドリルで問題が載っているページを見て、問題を解いてみよう！　もしわからない問題を見つけたら、それがお宝！　**間違いは自分を成長させてくれる進化の種だよ！**　これを見落とさないように、注意深く丸付けをしよう！

分析…もっと賢くなるためにはどうすればいいか考えよう！

テストをしたら、その結果を分析だ！　テストをやってみて、進化の種をゲットできた人は、その種を育てる方法を考えよう！　**苦手を乗り越える方法**だね！　書くことが思いつかない時は、その日のテストの感想だけでもいいよ！「よっしゃ！」とか「くやしい！」とか、自分の気持を書いてみよう！

練習…成長の方法がわかれば実際にやってみよう！

分析では自分の進化の種を育てる方法を考えたよね！　何か思いついたのならすぐにやってみよう！　また今度～じゃだめだよ！　**進化の種が一番よく育つのは、見つけた瞬間だ！**

もし、やることがないなら、どんどん先に進んでもいいよ！　次の次の次のテストの範囲も完璧にしちゃおう！　もしくは…今日のテストを解説してみよう！　先生みたいに、「どうやって解くのか」「なぜその答えになるのか」を、うまく説明することはできるかな!?

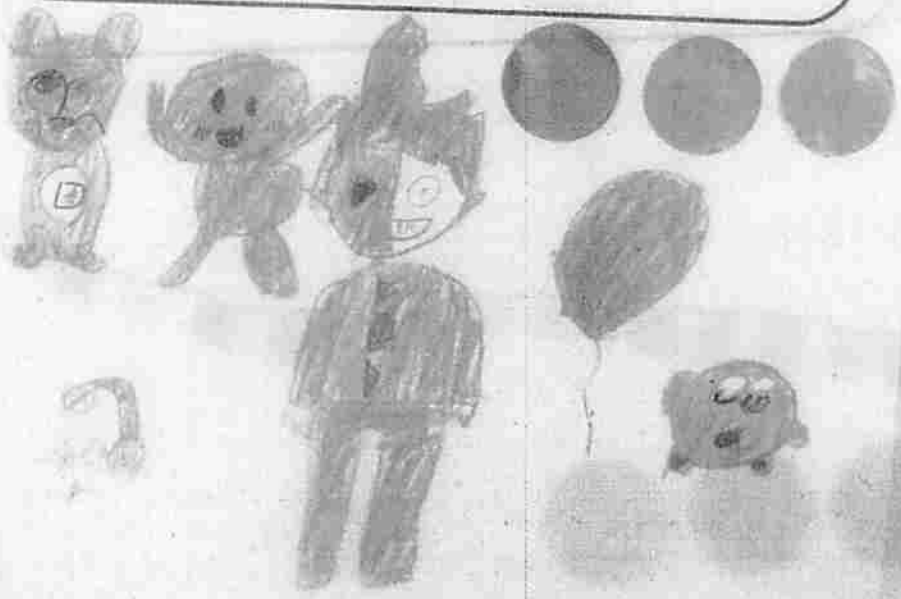
資料7

株主総会（6月末）でのアンケート集計表

YouTube会社	ダンス会社	とうさんしかけたおわらい会社	レク会社	かざり会社	アニメ会社	新BUN会社	会社にアドバイス
☆3	☆4	☆3	☆4	☆3	☆3	☆3	
☆3	☆2	☆3	☆3	☆4	☆4	☆3	ダンス会社へ　動画しか出ていないからダンスの発表したらいいと思います。これからもダンスがんばってください！
☆3	☆2	☆4	☆3	☆3	☆3	☆2	ダンス会社さんダンスは、生で見せた方が凄さが伝わると思う
☆3	☆2	☆3	☆3	☆3	☆4	☆2	ダンス会社さん　みんなが一緒の振り付けにしたほうがいいと思います。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆3	☆2	☆3	ダンス会社さんへダンスを踊るだけじゃなくて振り付けなどを説明した方がいいと思いました。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆3	☆2	☆2	ダンス会社 みんなで振り付けを合わせたらいい。 アニメ会社へ もっと投稿頻度を上げてほしい。 新聞会社へ もっと学校に関することの方がみんなが見ると思います。
☆4	☆2	☆4	☆3	☆3	☆3	☆3	
☆4	☆3	☆4	☆4	☆3	☆3	☆2	ちょっと新聞の内容をもう少しかえたほうがいいと思います。
☆3	☆2	☆3	☆3	☆4	☆3	☆3	ダンス会社へ、朝活の時にダンスを決めたり、ダンスのコツを教えてあげると良いと思います。
☆3	☆2	☆2	☆2	☆2	☆4	☆2	youtube会社さんへ　「やばい写真」意外にも他のネタを考えた方が良いと思います。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆4	☆4	☆3	ダンス会社へ　動画しか出ていないからダンスの発表したらいいと思います。これからもダンスがんばってください！
☆4	☆2	☆3	☆2	☆2	☆2	☆2	ダンス会社へダンスの振り付けを話し合い、みんなが好きな歌をながした方が良いとおもいます。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆3	☆2	☆3	ダンスを踊るだけじゃなくて振り付けなどを教えたほうがいいとおもいました
☆3	☆2	☆4	☆2	☆2	☆2	☆2	YouTube会社さんへ今でもすごく面白いので、もっと面白い動画をつくれると思います。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆3	☆3	☆3	ダンス会社　ただ踊っている打けじゃなくて声も入れたほうがいいと思います。
☆4	☆4	☆4	☆3	☆4	☆3	☆3	YouTube会社へもっとおもしろくしてください。
☆3	☆4	☆3	☆3	☆3	☆3	☆2	もっとわかりやすいところにはるといいです
☆4	☆2	☆4	☆3	☆3	☆3	☆3	
☆4	☆2	☆4	☆3	☆4	☆3	☆2	ダンス会社は、動画ではなく、前に出た方がいいと思います 新聞会社は、みんながわかる内容にすればいいと思います。
☆3	☆2	☆3	☆2	☆4	☆2	☆3	ダンス会社さんへ、みんながわかる曲にしたらいいと思います。 新聞会社さんへ、漢字などがわからない人がいるので、ヒナラガの方がいいと思います。 アニメ会社さんへ、もっとたくさん動画を出すといいと思います。
☆2	☆2	☆3	☆3	☆4	☆3	☆3	ダンス会社さんへ もう少しみんなの動きをそろえて笑顔でおどったら良くなると思います。 Youtude会社さんへ 関係ない人はあまり動画に映さないほうがいいと思います。
☆4	☆3	☆4	☆3	☆3	☆3	☆4	
☆3	☆2	☆3	☆3	☆4	☆2	☆3	ダンス会社：外で動画を撮ると良いかも。アニメ会社：冒険っぽいのを作っても良いかも。
☆4	☆2	☆3	☆3	☆4	☆3	☆4	Youtube会社 最っっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっっ高！ いつも笑える動画を出してくれてありがとう！これからも頑張ってください！
☆4	☆2	☆3	☆3	☆2	☆2	☆2	ダンス会社に踊ってない人がいて意味ないしみんな振り付けおなじじゃないから同じにしたほうが良いと思いますし
							動画を撮るときにうつった人にきょかをとった方がいいと思います。

会社

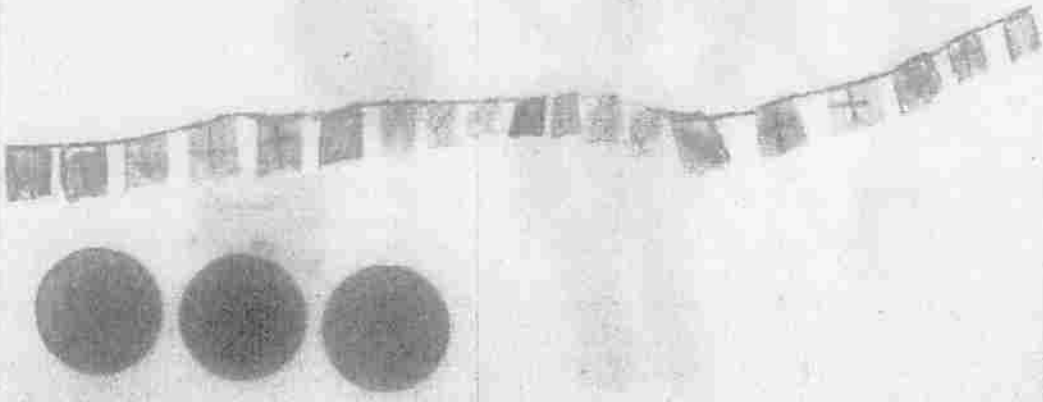
クラスのためにやること



かざり　会社

クラスのためにやること

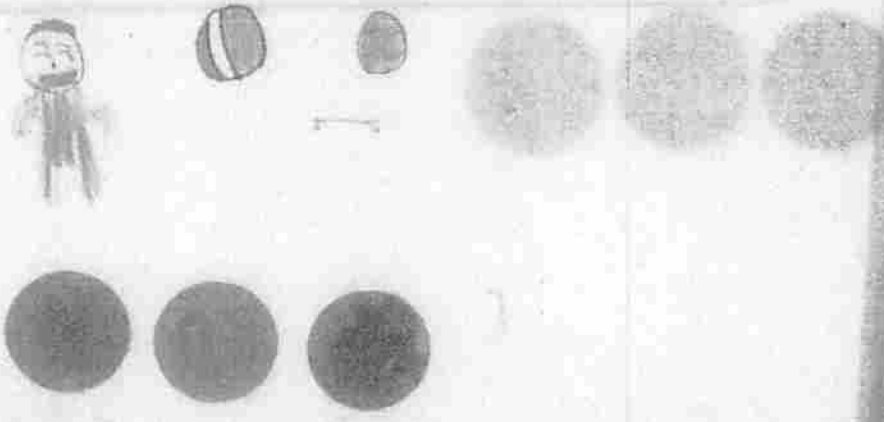
・教室をきれいにするために、おり紙でかざり、掲示物をかざります。
みんなが楽しめるような掲示物をかざります。
ぜひ、みなさんも、掲示物を見てみませんか？



レク　会社

クラスのためにやること

ひる休みや学期休みなどにレクをやります。みんながきょうせい参加ではなく、やりたい人たちです。Mはることはクラスを明るくしたえがおにすることです。1か月に2～3回やります。

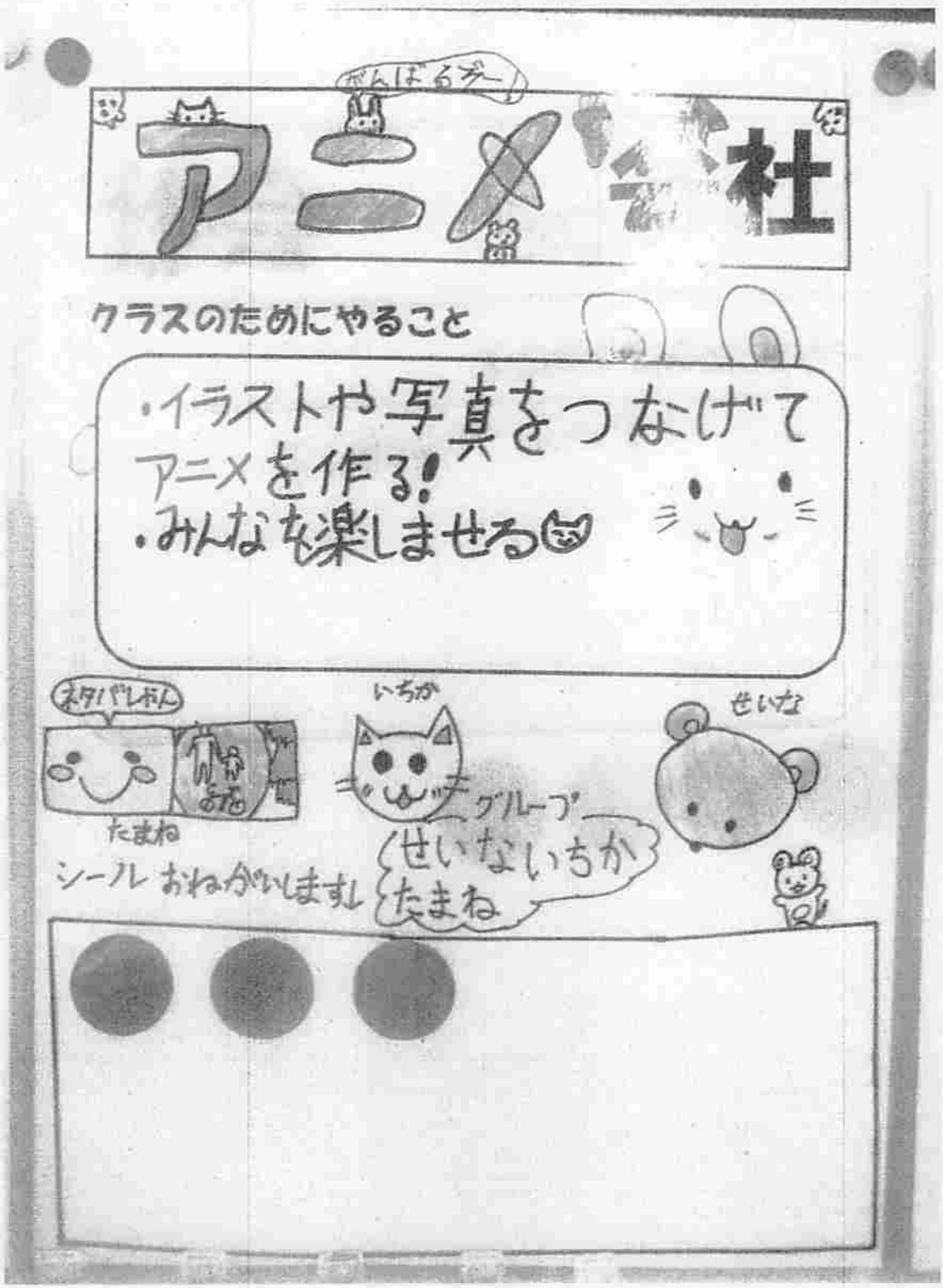


とうさんしがけたまはらい

会社

クラスのためにやること

・ムカツイてる人をたのしくさせる。
・みんなを笑がおにさせる。
・みんなが明るくなるようにおもしろいネタを考える。


ぶんばるぞー
アニメ社
クラスのためにやること
・イラストや写真をつなげてアニメを作る!
・みんなを楽しませる
ネタバレボム
たまね
いちか
せいな
グループ
せいないちか
たまね
シール おねがいします!

【資料１】「会社活動」各会社の掲示物

資料編

【資料１】「会社活動」各会社の掲示物　Ｐ１～Ｐ６

【資料２】「株主総会」アンケート集計表　Ｐ７

【資料３】「けテぶれ」とは何か　Ｐ８

【資料４】「けテぶれ」児童のノート　Ｐ９～Ｐ１０

【資料５】朝活メニュー表　Ｐ１１

○子どもたちの様子

4月当初から、ほとんどの子どもがよくがんばって取り組んでいる。3ヶ月間取り組むことで、全員がB評価以上をとることができ、「けテぶれ」のサイクルを回せるようになってきている。

また、「けテぶれ」交流会を行うことで、お互いのノートを見せ合い、取り組みを学び合い、参考にし合っている様子が見られる。特によい取り組みをしている子どものノートは、学級内に展示をし、いつでも見ることができるようにしている。（参照：資料P9～10）

5　成果と課題

○子どもたち自ら意思決定ができ、創意工夫がしやすい活動を導入したことで、子どもたちが自分たちのアイデアで活動を考え、主体的に活動する姿が多く見られるようになり、子どもたちの主体性を育むために有効であった。

○会社活動では株主総会を行い、お互いの活動を相互評価し、アドバイスし合う時間を設けたことで、自分たちの活動を客観的な視点で振り返ることができ、次への意欲につながった。

○「けテぶれ」を導入したことで、家庭学習の学習内容やめあてを自分で考えて取り組むことができるようになっていった。また、自分の学習を振り返る習慣がつき始めている。

○自主学習ノートを、週明けの朝の会でお互いに見せ合う時間を設けたことで、互いの取り組みが分かり、友だちの方法を参考にして、自分の取り組みに活かす子どもも現れた。

●挨拶の取り組みでは、4・5月の2か月間は意欲的に行っていたが、その後の発展的な活動を仕組むことができなかったため、自分から進んで先生に対し名前を呼んで挨拶する子どもが減ってしまった。担任から提案したものに取り組む「自主的」な活動のみでは、当事者意識が芽生えず、「主体的」な活動までに発展しないことが分かった。挨拶の重要性や必然性に触れさせることで、主体的な挨拶へとつなげていきたい。

●会社活動の「株主総会」では、翌月に向けての活動のモチベーションを高めていくために、助言のコメントだけではなく、称賛のコメントも積極的に記入するように声掛けをしていきたい。

●「けテぶれ」家庭学習では、B評価でとどまる子どもをA評価に高めていくための手立てが必要となる。子どもがより高みを目指したいと思えるような手立てをうつ必要がある。

【参考文献】

・文部科学省『小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　特別活動編』
・葛原祥太『「けテぶれ」宿題革命！子どもが自立した学習者に変わる！』学陽書房

(3)4月～「「けテぶれ」学習法で自らやる学びへ」

○目的

自分で何が足りないかを見つけ、取り組む内容を決めて学習し、振り返る力を高める。

→「与えられる学び」から「自らやる学び」へ

○方法

・土、日曜日の家庭学習は「自主学習ノート」に取り組む。(月～金曜日は担任が出す一律の課題に取り組む。)

・「けテぶれ」学習法を子どもに紹介し、この方法を活用して、自主学習に取り組む。

(参照：資料編P8)

け「計画」めあて、目的を明確にする。
テ「テスト」自分でテストをしてみる。
ぶ「分析」テスト結果を自分で分析する。
れ「練習」分析を生かして練習する。

この中でも、特に「分析」を大切にするように伝えている。どういうところができたのか、できなかったのかを振り返ることで、次につなげていくことができることを強調している。

学習の取り組みの見本を示すことで、イメージをもちやすくした。

・子どもたちの取り組みを担任が次の基準で評価をし、コメントと共にノートに書きこむ。

C…「けテぶれ」が出来ていない。
B…「けテぶれ」が出来ている。
A…質・量（2ページ）がよい。
S…それ以上できている。

・毎週の月曜日の朝の会の朝活メニューは、「自学ノートタイム（「けテぶれ」交流）」とし、自学ノートを机上に開いて置き、友だちのノートを自由に見合うことができるようにする。(参照：資料編P11)

「けテぶれ」家庭学習の見本の展示

子どもの家庭学習ノートの教室展示

朝活「けテぶれ」交流会の様子

映像関係が得意な子どもは、動画作りで活躍したことで、クラスのみんなから認められたり、普段あまり人と関わろうとせずに受け身だった子が折り紙の得意な子や先生のところに折り方を聞きにいったりするなど、クラスや個人の変容も見ることができた。

＜株主総会（ふりかえり）＞6月末

○目的：今まで自分たちがやってきた活動がクラスのためになっているかを確認する。

○方法：①学級活動の時間を１時間活用し、会社活動を振り返る時間を月末に設ける。

②各会社を☆４点満点で評価する。

☆４…活動＋クラスがより豊かになった

☆３…活動している＋少し豊かになった

☆２…活動している＋クラスのためにあまりならなかった

☆１…１か月間活動していない

※☆２をつけた人は、アドバイスを書いてもらう。

※その他、伝えたいことがある人はそれぞれの会社にコメントを入力する。

②Google フォームを活用し、円グラフを提示する。

③グラフの中で一番多いものが自分達の評価となる。

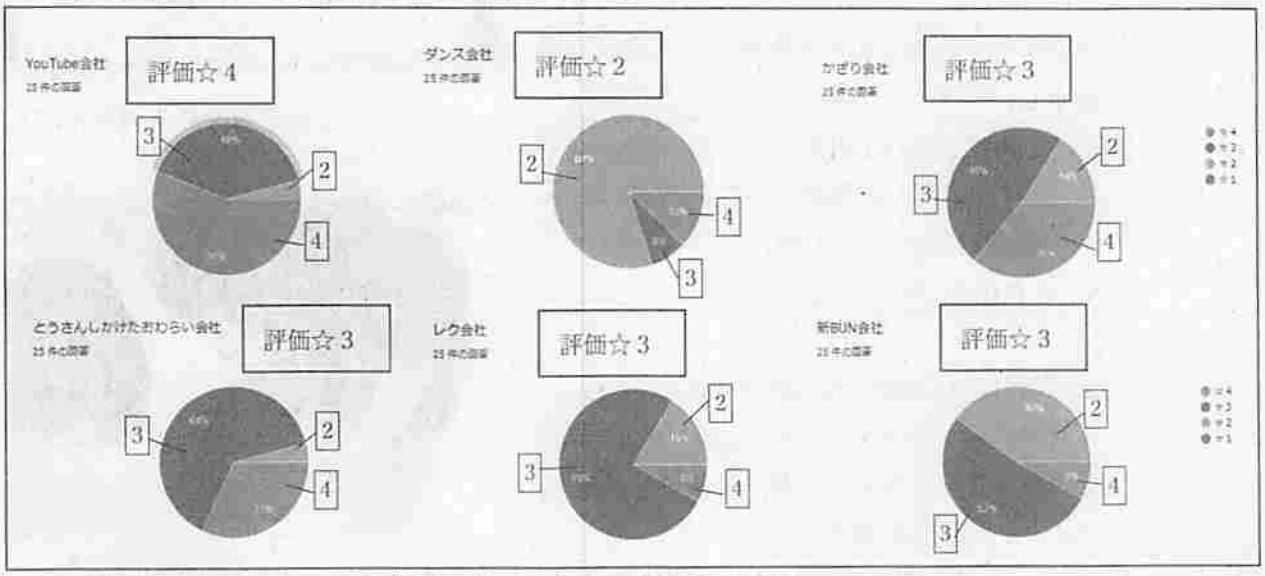
④会社活動の掲示物に、評価の数だけ金シールを貼る。

⑤担任が☆２の評価をもらった会社へ、どんなアドバイスがあったかをフィードバックを行う。

⑥残った時間に来月に向けての話し合いを行う。

○子どもたちの様子（参照：資料編Ｐ７）

クラスのみんなからの称賛や評価を受けたことにより、子どもたちはより一層活動への意欲を高めていた。残った時間の話し合いでは、どの会社も頭をつき合わせて、来月への活動に向けての作戦会議や準備を始めていた。



「株主総会」による相互評価の結果

○担任の心構え

担任の心構えとして大切にしたことは、「求めない」ということである。導入の語りでも子どもたちに伝えたが、無理をしないこと、やりすぎないことを大切にしている。担任が子どもたちに「求めてしまう」と、子どもたちも、そして担任自身もお互いに苦しくなってしまう。

あくまでも、目的はクラスを少しでも豊かにすること、そして子どもたちの主体性を育むことでるため、担任は基本的なルールを示した後は、子どもたちの様子を見守りながら、共に楽しむことを大切にしていった。

子どもたちに「求めたこと」は、下記の内容となる。

・称賛の声、ポジティブな声かけ

「おもしろかったね。」「楽しかったね。」

・けじめ、聞く時は聞く

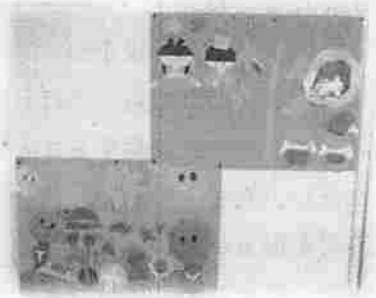
クラスのために準備したり、取り組んでくれたりした活動に対して、その場で、称賛の声を言葉にしていくことを呼びかけ、担任自身もそれを実践していった。

○子どもたちの様子（参照：資料編Ｐ１～６）

もともと休み時間に何かをやる文化がなく、１０分休憩の時などは、次の準備をして座って待つことの多かった子どもたちであったが、会社活動が始まってからは、同じ会社の友だちと一緒に会社活動に取り組む姿が多く見られるようになった。

YouTube 会社は、自分たちでコントを作って動画に撮ったり、変顔を撮影したりした写真をつなぎ合わせたりした動画を休み時間に披露し、皆を笑わせた。かざり会社は、休み時間に折り紙を折り、季節に合った掲示物を作成した。新聞会社は、宿泊学習の後に、その様子を学級新聞にまとめて教室に掲示をした。どれも、子どもたちの主体的かつ創造的な活動であった。

「YouTube 会社」による動画発表



「かざり会社」による季節の掲示物

「新聞会社」による学級新聞

「クラスが楽しくなるといいよね。楽しくなるには他に何か活動があるといいよね。
やりすぎは負担になるから、やるほうも参加するほうも、できる範囲でいいよ。
失敗も大切。いろんなことにチャレンジしていけば楽しいんじゃない？」

「クラスをひとつの町と見立てて、クラスをより楽しく豊かにできる『会社活動』というのをやってみたいけどどう？なくてもいいけど、あったら楽しい会社。例えば、筋トレ会社、YouTube 会社、ダンス会社、クイズ会社、掲示物会社・・・。２週間後の６月から始めてみたいと思うけどどうかな？」

子どもたちは、活動内容を初めて耳にし、驚きとともに、前向きな反応であった。

そして６月。学級活動の時間に、会社活動の目的「クラスが少しでも豊かになること」を確認し、どんな会社をつくりたいかを話し合った。

YouTube 会社、アニメ会社、スーパープレー会社、お笑い会社、レク会社、かざり会社、新聞会社などのアイデアが出され、以下のきまりや方法を確認した。

＜会社活動＞

○目的：クラスが少しでも豊かになること。

○方法

①自分の入りたい会社を選んで会社を立ち上げる。

②メンバー数は１～５人。
（６人になるとやらない子が出てきやすくなるため。）

③一人が入れる会社は１つ。
（１つに集中して頑張ってほしい。）

④いつでも会社を移動することが可能。
ただし、先生、現会社、新会社の人の許可を得ること。
（いろいろなことに挑戦させたい。）

⑤新しい会社を立ち上げてもよい。

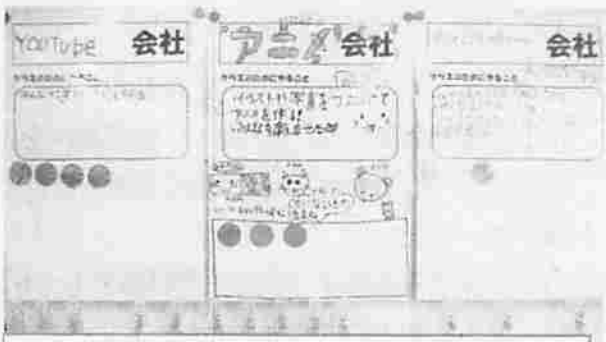
⑥メンバーが６人をこえたら、会社を２つに分ける。その時は、２つの内容を変える。

⑦リーダー（社長）を決める。

⑧会社のメンバーが一人もいなくなったら倒産。

⑨月末に「株主総会」を行い、活動をお互いに振り返る。

教師のねらい：子どもたちの主体性を育むために、自身の行動が他者の役に立っているという充実感を感じさせる。



ここにメンバーの名札をつけている。

移動（転職）しやすい掲示物になっている。

「会社活動」掲示物

４月の一ヶ月間、「４－１あいさつプロジェクト」を実施したことにより、自分から先生の名前を呼んで、挨拶をすることができるようになってきた子どもたち。毎月、同じ取り組みでは飽きてしまうことや、いろいろな取り組みを楽しませたいと考え、５月からは、「あいさつ名人になろう」の取り組みを子どもたちに提案し、賛同を得て、スタートをした。

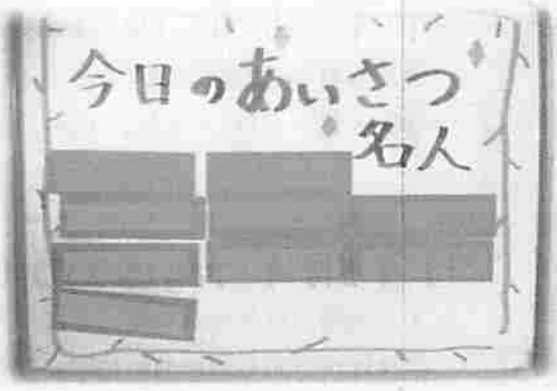
「あいさつ名人になろう」（５月）

○方法

①校内で先生を見付けたら「○○先生、おはようございます。」と挨拶をする。

②帰りの会で、何人の先生に自分から挨拶ができたかを個人で確認する。

③一人で８人以上の先生に挨拶ができたら、「今日のあいさつ名人」として、ホワイトボードにネームプレートを貼る。



「あいさつ名人になろう」掲示物

○子どもたちの様子

４月の「４－１あいさつプロジェクト」では、クラス全体で目標をもって取り組んでいたことに対し、５月の「あいさつ名人になろう」では、個人での取り組みがより評価しやすいかたちに変わったことで、一人一人のがんばりが見えやすくなり、よりお互いに称賛し合えることができた。毎日の取り組みなので、今日できなかった人も明日はあいさつ名人を目指そうと、意欲を継続させていくことができていた。５月も引き続き、他学年の先生から「４年生の挨拶はすばらしいね。」とお声かけいただくことも多く、子どもたちに挨拶の習慣が身に付いたと判断したため、「あいさつ名人になろう」を終了し、子どもたち一人一人の挨拶の高まりを期待し、見守ることにした。

（２）６月～「会社活動でクラスをより豊かにしよう」

４月当初の学級活動の中で、クラスに必要な係活動について子どもたちと話し合った。前学年までの経験をふまえ、以下のような係分担となった。

手紙係、体育係、保健係、配り係、学級係、給食係、音楽係、黒板・日付係、レク係の９つの係に分かれ、それぞれの活動がスタートした。どの係も、低学年の時からの延長で、子どもたちも責任をもって取り組んでいた。

これらの活動は、どちらかというと当番活動的な要素が多く、創意工夫の余地がないと考え、５月中旬に以下の提案を子どもたちに行った。

「係活動」掲示物

3　研究内容と方法

子どもの主体性を育てるクラスづくりをしていく中で、個や集団がどのように変容したのかを考察する。そこから、効果的な支援は何かを分析し、成果と課題を明らかにしていく。

夏休み前までの学級経営を考察する。

（1）４・５月「４－１あいさつプロジェクト」「あいさつ名人になろう」
（2）６月～「会社活動でクラスをより豊かにしよう」
（3）４月～「『けテぶれ』学習法で自らやる学びへ」

4　実践内容

（1）4・5月「4－1あいさつプロジェクト」「あいさつ名人になろう」

４月当初、自分から元気よく挨拶をすることができない子どもが多いことが気になった。挨拶は自分から積極的に相手に関わろうとする気持ちを育む基本となる。

そこで、子どもたちに、「挨拶は名前を呼んで目線を合わせて言われたらとてもうれしい。『４－１あいさつプロジェクト』を始めたいのだけど、どう？」と投げかけ、子どもたちの賛同を得て、スタートした。

４月当初は、自分たちで何かを考えアイデアを出すことは難しいため、まずは、担任がクラスをよりよくするアイデアを提案することで、「行動し、振り返る」経験を積ませたい。この段階では「自主性」を培っていくことを目的とした。

「4－1あいさつプロジェクト」（4月）

○方法

①校内で先生を見付けたら「○○先生、おはようございます。」と挨拶をする。
②帰りの会で、「○○先生に挨拶ができた人」を確認する。クラスで５人以上が言えたら、その先生の欄に○をつける。
③全部で１４人いる先生のうち、１０人以上の先生に○がついたら、カレンダーに「○人できたね！」と言いながら数字を書き込んでいく。

○子どもたちの様子

他の職員から、「４年生の挨拶は気持ちがいいね。」「学校一の挨拶だね。」と言われるくらいに、自分から挨拶ができる子が増えた。帰りの会での確認の時間も、みんなで喜び合ったり、拍手をして称賛し合ったりと盛り上がった。

「４－１あいさつプロジェクト」掲示物

いている。また、やさしい子（徳育）の重点目標として「豊かな社会力」を掲げ、「ルールやマナーを守り、正しい行動をする力（規範意識）」や「社会や他人のために積極的に役立とうとする力（自立と貢献）」などの育成に力を入れている。

（３）学級の実態より

本学級の子ども（男子１１名、女子１１名、合計２２名）は、素直な子どもが多く、授業のルールや学習規律もよく守ることができる。チャイム前着席や、手を挙げて発表することができ、話を聞く態度もよい。一方で、自分たちで物事を考え、判断したり、主体的に行動したりする姿はあまり見られず、「先生、これやっていいですか？」「先生、これはどうしたらいいですか？」と、担任に判断を求める姿がよく見られる。

将来社会に出た時には、言われたことや決められたことを行うだけでなく、「自分で考え、アイデアを出し、行動し、振り返る力」が必要となる。子どもたちには、友だちと豊かな関わり合いを基盤としながら、主体的に学校生活に関わっていく力を身に付けてほしいと願い、本主題「子どもの主体性を育てるクラスづくり」を設定した。

２　研究仮説

子どもたち自らが意思決定できる環境を整え、自らの活動を振り返る機会を意図的に取り入れることで、自ら課題を発見し、自分で考え、アイデアを出し、行動し、分析することができ、主体性を身に付けることができるだろう。

本研究では、「自主性」と「主体性」を分けて捉えている。「自主性」とは、「決まっていることや課題に対して、誰にも言われずに自ら行動していく力」、「主体性」とは、「自ら課題を発見し、自分で考え、アイデアを出し、行動し、振り返る力」と捉えている。「自主性」を身に付けるのみならず「主体性」を育んでいくことに挑戦したい。

４月当初は、自分たちで何かを考えアイデアを出すことは難しいため、まずは、担任がクラスをよりよくするアイデア（「あいさつ活動」）を提案することで、「行動し、振り返る」経験を積ませたい。この段階では「自主性」を培っていく。

その経験を踏まえ、６月頃からは、自分たちで考え、アイデアを出し、行動し、振り返る経験を積ませていく。学級を社会と見立て、社会を自分たちの会社で豊かにしていこうと思いをもたせるために、会社活動を導入する。さらに、子どもが意思決定をする、活動を無理なく楽しむ、自己評価や他者評価を通して振り返りを繰り返し行う等の仕組みを整えることで、自分のアイデアで学級をより楽しく豊かにしていける、学級に貢献できているという経験や友だちに認められているという経験を積むことができるだろうと考えた。

また、家庭学習においても、与えられた課題に取り組むだけではなく、自ら学習内容を選択し、取り組み、振り返るシステムを取り入れることで、子どもたちの主体的に学びに向かう力をより高めていけるだろうと考えた。

研究主題

子どもの主体性を育てるクラスづくり

1　設定理由

（1）社会の変化より～なぜ主体性の向上が必要なのか～

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっている。中央教育審議会答申（平成28年）において、子どもたち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要とされた。主体性を育む教育は、持続可能な社会の担い手を育てる観点からも、個々人の well-being を向上させ、より豊かに生きるためにも重要である。

内閣府(2018)による国際比較調査「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると、日本の子どもたち・若者の主体性は他の先進国と比べて低く、「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」、「うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む」、「決断力、意志力に誇りを持っている」の全ての項目において、調査対象の7か国中最下位である。

持続可能な社会の構築には、答えのない問いに立ち向かい続け、主体的に課題を発見し解決していく力が求められる。企業もイノベーションの促進に力を入れており、失敗を恐れないチャレンジ精神や優れた自己表現ができる人材、すなわち主体性を持った人材を求めている。経団連が会員企業等を対象に実施した「採用と大学改革への期待に関するアンケート」（2022年1月公表）によると、企業が大卒者に期待する資質として最も多かったのが「主体性」(84.0%)であり、次いで「チームワーク・リーダーシップ・協調性」(76.9%)や「実行力」(48.1%)となっている。

社会で求められている主体性とは、「自分で考え、判断し、責任をもって行動する」力である。このような主体性を育むためには、授業改善の視点のみならず、日々の学級経営の視点においても工夫改善を図っていく必要がある。

（2）学校教育目標より

本校の学校教育目標は下枠のとおりである。

「かしこい子どもの育成」
○勉強する子（知育）
○やさしい子（徳育）
○元気な子　（体育）

本校では、勉強する子（知育）の重点目標として「確かな学力」を掲げ、その中でも今年度は、「自ら学ぼうとする意欲的な学習態度を身に付けさせる」ことと、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図り、コミュニケーション力を育てる」ことを重点にお

印旛地区教育研究会
生活指導研究部

子どもの主体性を育てるクラスづくり

1　設定理由

本学級の児童は、素直な児童が多く、授業のルールや学習規律もよく守ることができる。一方、自分たちで物事を考え、判断したり、主体的に行動したりする姿はあまり見られず、担任に判断を求める姿がよく見られた。将来社会に出た時には、言われたことや決められたことを行うだけでなく、「自分で考え、アイデアを出し、行動し、振り返る力」が必要となる。子どもたちには、主体的に学校生活に関わっていく力を身に付けてほしいと願い、本主題「子どもの主体性を育てるクラスづくり」を設定した。

2　研究仮説

子どもたち自らが意思決定できる環境を整え、自らの活動を振り返る機会を意図的に取り入れることで、自ら課題を発見し、自分で考え、アイデアを出し、行動し、分析することができ、主体性を身に付けることができるだろう。

3　研究内容

（1）４・５月「４－１あいさつプロジェクト」「あいさつ名人になろう」
（2）６月～「会社活動でクラスをより豊かにしよう」
（3）４月～「『けテぶれ』学習法で自らやる学びへ」

4　結論

○創意工夫がしやすい会社活動を導入したことで、子どもたちが自分たちのアイデアで活動を考え、主体的に活動する姿が多く見られるようになった。株主総会（振り返り会）を行い、お互いの活動を相互評価し、アドバイスし合う時間を設けたことで、自分たちの活動を客観的な視点で振り返ることができ、次への意欲につながった。

○「けテぶれ」学習法を導入したことで、学習内容を自分で考えて取り組むことができるようになっていった。自主学習ノートを、週明けの朝の会でお互いに見せ合う時間を設けたことで、互いの取り組みが分かり、友だちの方法を参考にする姿が見られた。

●挨拶の取り組みでは、４・５月の２か月間は意欲的に行っていたが、その後は少しおさまってしまった。担任から提案したものに取り組む「自主的」な活動のみでは、当事者意識が芽生えず、「主体的」な活動までに発展しないことが分かった。今後、挨拶の重要性や必然性に触れさせることで、主体的な挨拶へとつなげていきたい。

成田市立中台小学校
伊藤　俊介